講義名	組織心理学				
科目区分	学部フリーゾーン				
担当教員	森上　幸夫				
開講期・曜日・時限	前期 金曜日 ４時限			授業形態	
	2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツマネジメントコース／2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース／2019年度 人間社会学部 人間健康学科／2019年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース／2019年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース／2019年度 人間社会学部 観光学科／				
履修開始年次	２年生	単位数	2	備考	

主題と概要

組織のとらえ方は多様である。ひとつの目標のもとに人々が集まる状態をさすこともあれば、役割と地位を有する人々の関係をさすこともあり、また情報を処理するシステムとみなしたり、利益を生み出す活動を継続する主体とみなしたりすることもある。
このように、組織とは多義的な概念であると言えるが、いずれにしろその実態は社会や文化を背景にした複雑な問題が必然的に生じることになる。そのような組織の問題の解決に対して、現代の行動科学の方法論と知見は重要な役割をはたしてきた。なかでも組織心理学は、産業心理学、社会心理学、応用心理学、グループ・ダイナミックス等の関連領域と連携しながら、組織の問題に関する膨大な研究成果を蓄積している。
組織心理学は、組織の問題を多面的に理解し、その問題を社会科学的に解決する方法を考察する。

到達目標

組織心理学の講義においては、組織の問題を、①組織内の個人、②組織と心身の健康、③組織と個人の関係、④組織のダイナミックス、の4つの点に対して、その調査結果あるいは実験結果を検討する。それぞれの組織の問題について多様な視点から把握を試み、その解決について社会的な観点から合理性と客観性をもって理解することが目標である。

提出課題

授業回の中期と末期において理解度について回答を求める。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

理解度の回答を提出後に自己採点が可能なように正解を公表する。

評価の基準

授業回における中期の課題への回答が50%、末期の課題への回答が50%である。

履修にあたっての注意・助言他

講義では必ずノートをとること、講義内容については常に疑問をもち、興味・関心のある事柄は講義外においても考え続け、関連する文献・情報を手に入れようとする態度が大切であると考える。

教科書

.使用しない.

プリント資料及び参考文献

「仕事とライフ・スタイルの心理学」　西川・森下 他編　福村出版　2001
「経営組織」　金井 著　日経文庫　1999
「ＯＳＩ職業ストレス検査」　Osipow 原著　田中・渡辺 著　1997

授業計画

1. 組織心理学への導入１　「組織心理学の目的と方法」
2. 組織心理学への導入２　「組織の定義と組織心理学の展開」
3. 組織内の個人１　「個人の意欲を高める組織環境」
4. 組織内の個人２　「個人の意欲を説明する理論」
5. 組織内の個人３　「組織における人間観」
6. 組織と心身の健康１　「組織とストレス」
7. 組織と心身の健康２　「組織内ストレスの対処と燃え尽き症候群」
8. 前半のまとめ　「組織内の個人および組織における健康に関する理解」
9. 組織と個人の関係１　「組織の規範と権威の影響」
10. 組織と個人の関係２　「組織の多数者と少数者の影響」
11. 組織のダイナミックス１　「組織目標とリーダーシップ」
12. 組織のダイナミックス２　「組織内のリーダーの役割」
13. 組織のダイナミックス３　「組織内の力関係」
14. 組織心理学の課題と展望　「組織心理学の要約」
15. 後半のまとめ　「組織と個人の関係および組織のダイナミックスに関する理解」

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）
	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート
	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション
	カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

「1回目と２回目の授業後に各3時間の復習」、「3～5回目の授業前に関連資料もしくは参考文献を用いた各2時間の予習、および授業後に各2時間の復習」、「6回目と7回目の授業前に参考文献を用いた各2時間の予習、および授業後に各2時間の復習」、「8回目の授業前にそれまでの授業内容の要約作業4時間、および課題内容についての2時間の復習」、「9回目と10回目の授業前に関連資料と参考文献を用いた各2時間の予習、および授業後に各2時間の復習」、、「11～13回目の授業前に参考文献を用いた各2時間の予習、および授業後に各2時間の復習」、「14回目と15回目の授業前にそれまでの授業内容の要約作業4時間」を要する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

なし